

第 15 号の刊行によせて

平成 14 年度から取り組んできました金沢城の調査研究事業も、はや 15 年の年月を重ね、来年度より第 2 期の後半事業に入ります。

先般、全国城跡等石垣整備調査研究会が金沢で開催されました。文化財としての石垣をどのように将来に守り伝えてゆくかについて、全国の事例に即して、熱心な検討がなされました。県内外から 500 名もの参加者があり、盛況のうちに終えることができました。一般県民の参加も多く、関心の高さがうかがえる研究会となりました。

さて、本号には、これまで藩主前田家の医療や医家について研究を進めてこられた池田氏の新たな調査成果、近代庭園の特徴と保護の動きを追究し、近代の前田家駒場邸の庭についても特徴を明かにされた栗野氏の論考二編、前田家江戸本郷邸の門通行の手続きのありかたに注目した袖吉氏の研究ノート、そして大河内氏の、兵学者関屋政春や文化期に金沢城再建事業に携わった関屋政良を輩出した加賀藩士関屋家旧蔵文書の資料紹介を載せることができました。原稿を寄せていただいた方々に厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本書が県民の皆様の金沢城に対する高い関心に応え、本研究所の事業内容や金沢城、金沢城下町について理解する一助となり、広く近世城郭研究に資するものとなることを願ってやみません。

平成 29 年 3 月

石川県金沢城調査研究所
所 長 木越 隆三